

177 心筋症のタリウム心筋イメージ像とX線左室造影所見，超音波心断層所見との対比。

木之下正彦，本村正一，沢村松彦，福原武久，川口義広，尾崎信之，高山幸男，三ツ浪健一，加藤正太郎，真城 巖，河北成一（滋賀医大・1内），薮本栄三，浜中大三郎（滋賀医大・放）

タリウム心筋イメージング像（Tl 像）は局所心筋血流のみならず心筋量を判定するのに有用である。肥大型心筋症（HCM）13例，内訳は心尖部肥大型5例，中隔肥大型4例，び慢性肥大型4例であり，さらにうっ血型心筋症（CCM）6例について Tl 像を3方向から撮影した。同症例のX線シネによる両室造影超音波心臓断層による心筋肥大部位と対比した。Tl 像は各方向の像を5つのほど等しい分節に分け，全15の分節について肥大程度を+1から+3の点数で表示した。各心筋部位の Tl 像と超音波断層像と合致する例7例，合致しない例4例，Tl 像が不明瞭な例2例であり，び慢性肥大型，中隔肥大型はよく合致したが心尖部肥大型は Tl 像の検出率は低かった。前壁肥厚はシネ撮影像とよい一致を示した。CCMの Tl 像は内腔の拡大像，円形化をみる事ができた。

結論として Tl 像のみからHCMの局所心筋肥大部位を検出するには Sensitivity は低いが虚血性心疾患との鑑別上有用な一つの補助手段である。

178 心筋シンチグラムにおける左右心筋摂取比について

—心カテーテル検査諸値との比較を中心として—
内藤博昭，西村恒彦，植原敏勇，林田孝平，小塚隆弘，木幡 達*，神谷哲郎*（国立循環器病センター，放診部，小児科*）

心筋シンチグラムでの右室壁の描出は右室負荷の反映といわれる。そこで²⁰¹Tl Cl による心筋シンチグラム第2斜位像で右室領域と中隔を含む左室領域のカウント比（RV/LV uptake ratio 以下UR）を右室描出の指標とし，各種心疾患100症例で心カテーテル成績等と対比検討した。対象は①コントロール群（心機能正常のMCLS. Angina），②MS群，③ASD群，④TOF群。①では小児は成人に比べややURが高く，乳幼児期の生理的右室負荷の反映と思われた。②では①に比べ高いURを示すがpure MSではその差はわずかで，TR合併例で特に高値を示した。③④は②に比べ更に高いURを示す。③では肺血管抵抗の低い群ではUR上昇は著明でなく，肺血管抵抗上昇やTR合併に伴いURは特に高値を示した。URは右室負荷の指標として有用で，圧負荷と容量負荷の合併例で著しい高値を示す。また単位心筋当りの摂取比についても検討したので併せ報告する。